

研究成果報告書

【申請者氏名】

菊池 加代子

【所属機関】

公立大学法人 長岡造形大学

【研究題目】

栃尾紬アーカイブの構築

【研究目的】

本研究では、長岡市文化財「栃尾紬標本」のデジタルアーカイブ作成と並行して栃尾紬資料（布と道具、雪国における養蚕と製織、それらが行われた背景等）を収集し、「デザイン」「生産方法」「絹文化」の記録と資料保存を目的とする。

【研究内容及び成果】

長岡市文化財「栃尾紬標本」のデジタルアーカイブ作成（江戸時代・40枚80頁797点）を大学内撮影スタジオに於いて2億画素のデジタルカメラにて撮影。そのデジタルデータを元にテキスタイルデザインとして利用しやすいようにリピートをつけた資料を試作した。（下記写真 左＝撮影の様子 右＝テキスタイルデザイン資料）



長岡市栃尾美術館にて特別企画「栃尾の手織物と絹文化」展を第一期 2020/8/18～9/27、第二期 2020/10/6～11/23 の日程で行った。情報収集を目的とした展示で、会期中に多くの情報が美術館に寄せられ、美術館の工作室をお借りして資料調査やインタビューを行った。長岡市指定有形民族文化財「栃尾紬標本」と有形文化財「一之貝百二十・十の字拵」も展示する事ができた。

(下記写真 左＝郷土史研究家、栃尾紬研究会、栃尾紬業者に聞き取り。右＝タンスの着物を調査。栃尾美術館工作室に於いて)



長岡市が保管し未調査の資料がある事がわかり、今後の研究対象となった。養蚕から機織りまでの道具が中心に保管されていたが、その中には端切れもあり、地域ごとのデザインを確認するために貴重な資料である。

(下記写真 左＝長岡市が保管する道具 右＝長岡市が保管する道具と端切れ)



多くの証言から養蚕が栃尾地域の重要な副業であった事が再確認できた。繭で出荷、糸繰りも行い糸で出荷、家内使用として糸は自家製、織は外注、養蚕から糸繰り織、仕立てまでを一貫して行い家内使用だけではなく業者に納める家庭など、養蚕を中心として絹製品が生産された土地であるという事がわかった。

現在90歳代で栃尾紬を製織していた剣持トシさんの資料（道具、布、糸、映像、季刊誌の記事）を発掘し、道具類は調査の為に大学に移動済みで今後はインタビューと調査を続ける。

もう一人90歳代で栃尾紬を製織していた中野タケノさんにも出会う事ができ、調査にご協力をいただく事になっている。

（下部写真 左＝剣持トシさん調査 右＝剣持トシさん製織端切れ）



（下部写真 左＝一之貝、三本家道具 右＝西中野又、金内家着物）



【今後の課題】

栃尾紬を持っている人、栃尾紬を商っていた人、養蚕や糸作り、織を家族が行っていた事を知っている人から話を聞く事ができたが、どなたも高齢でその先の調査が急がれる事を改めて知る事となった。

情報が芋づる式につながって行く事がわかり、広がった情報網の整理と調査を急がねばならない。栃尾美術館での展示が情報収集のきっかけとして功を奏したので、来年度も同様に栃尾美術館の協力を仰ぐ事にしており日程も決定した。次回は、養蚕に注目して夏休み期間でもあるので、子供向けに糸繰りや真綿作りのワークショップを行うなど、幅広い年齢に栃尾紬を認識してもらうことを検討している。

調査の対象者が高齢のために調査が急がれるが、雪国でなお且つ今年は豪雪であるために調査期間が短い事に合わせて、コロナ禍での注意は怠る事ができず、現在も学内に学外者の入校制限があり、計画していた調査の進行ができずに遅れている現実がある。

本研究は、3年計画で今年度は1年目である。2年目は、学内の特別研究費を受給することが決まっているが、3年目の研究費の目処が立っていない。3年目は、調査を継続しながら、まとめとして印刷物に研究成果を残し、資料展示と研究発表会を計画している。

【発表論文等】

新聞掲載

2020年10月15日 朝日新聞 栃尾紬 記録と記憶を後世に 栃尾紬の資料を研究者が収集

<https://www.asahi.com/articles/ASNBG7767N9KUOHB00Q.html>

2020年10月15日 新潟日報 そいがあて10月号 長岡歴史散歩「栃尾の手織物と絹文化」寄稿

2020年10月31日 新潟日報 「栃尾紬」の技術保存へ 造形大教授ら研究会設立
<https://www.niigata-nippo.co.jp/news/local/20201102578670.html>

2020年11月11日 新潟日報おとなプラス 特集記事として「栃尾紬手仕事の文化」

栃尾紬 暮らしの様紡ぐ

研究者ら記録保存活動 長岡で展覧会開催

長岡市栃尾地区で生産され、集落ごとに独自のデザインで作られた絹織物「栃尾紬」。かつて地区の各家庭で織られていたが、着物文化の衰退とともに作られなくなっていた。その技術や記憶を後世に残そうと、研究者らが取り組みを始めた。

9月中旬、栃尾地区の体が、農機具や織り機などの育館の駐車場にある薄暗い 収納品から栃尾紬の端切れ用具庫の中。長岡造形大学が入った木箱を見つけた。の菊池加代子教授や県立歴史「まだ絹のつやが残っている」。菊池教授は感心している。



展示された栃尾紬の着物や帯などを説明する菊池加代子教授＝長岡市栃尾美術館

農家の副業 集落ごと違う色や縞

から写真を撮影した。

栃尾紬は、栃尾地区で農家の副業として生産されていた絹織物。菊池教授によると、各家庭で養蚕から製糸、製織、着物の仕立てまで行われ、集落ごとに色や縞などデザインが異なる。江戸時代には盛んに生産されたが、洋服の普及とともに生産量は減り、昭和時代半ばには、ほぼ生産されなくなったという。

菊池教授は、2016年



菊池教授らは用具庫で見つけた栃尾紬の端切れを手に取り、撮影するなどした。9月16日、栃尾体育館

に栃尾地区の一之貝集落を訪問。残されていた織物は、文献にあった通り、この集落の特徴とされるかすれた模様だった。「他の集落も見たい」と思ったが、かつての作り手は高齢になり、伝承もほぼ途絶えていた。地域の貴重な文化の記録を残そうと今春、県立歴史博物館の研究者らとともに研究会を立ち上げ、資料の収集などを始めた。今年、長岡市栃尾美術館で「栃尾の手織物と絹文化」と題した展覧会を開催。3家庭で織られていた着物、帯、織り機のほか、江戸時代に仲買人が農家に見本として示したという市指定文化財の「栃尾紬標本」などが、11月23日まで展示されている。菊池教授は「こんなに素晴らしいものがつくられていたことを誇りに思っている」と情報求めている。

展覧会は、午前9時～午後5時。月曜日(11月23日を除く)は休館。問い合わせは同美術館(0258・536300)へ。(緑川夏生)

長岡歴史散歩

栃尾の手織物と絹文化

ぼこ様、すきっこ、まけまけ……。なんてかわいい言葉でしょう。長岡市栃尾では、農家の副業として幾代にも渡り、養蚕から糸作り、染色、織り仕立てまでを家内で一貫して行い、貴重な現金収入を得て、家族や親戚が着ていた時代がありました。

ぼこ様は、お蚕様のこと。すきっこは、透き通ってきただお蚕様のこと。すきっこになったら繭をつくりはじめめる合図で「まぶし」に移して繭を作ります。そうしてできた繭から糸を引くことをまけまけと。道具を回転させる作業をそのように言っていたのでしょうか。

栃尾の全域で織られていた反物は、地域ごとにデザインの特徴があったそうです。田之口の黄縞、森上の無地、荷頃の干筋、中野俣の鼠縞、一之貝の緋、赤谷の大柄、栗山沢の黒地、黄格子、黄八丈など。

現在、長岡市栃尾美術館で開催中の開館25年のあゆみ展 特別企画「栃尾の手織物と絹文化」と題し、栃尾で作られた着物や反物、織機や各種道具類を展示しています。主に3家庭の着物を展示していますが、家庭ごとにデザインや風合いの違いがあり、制作者の楽しみや喜びを伺い知ることが出来ます。長岡市文化財「栃尾袖標本」と「一之貝 120目十字の緋」も展示しており、江戸時代から連綿と続いていた栃尾袖を知ることが出来ます。

今日では貴重な手仕事は失われてしまいました。30、40年前までは行なわれていました。今でも養蚕や制作をしていた人、子供の頃に手伝わされていた人、幼子の思い出にその様子をご存知の人がいらっしやいます。この地域で育まれた手織物と絹文化の資料を展示することで皆さまにたく

さんのことを思い出して教えていただきたいと思います。また、栃尾袖の魅力と極めて貴重な絹文化の価値を再認識し、それらを後世に伝えるために情報を集めて記録することを本展示の目的としています。情報をお願いいたします。

*開館25年のあゆみ展 特別企画「栃尾の手織物と絹文化」 会期／2020年11月23日まで 会場／長岡市栃尾美術館

情報提供 Ⅱ 展示期間中は長岡市栃尾美術館まで



長岡造形大学

教授

菊池 加代子

長岡

長岡支社 代表 0258(34)9600
 〒940-0082 報道部 (34)9633
 長岡市千歳 1-3-43 FAX (34)9660



紫外線情報 長岡 やや強い

伝統の絹織物

「栃尾紬」の技術保存へ

資料少なく、関係者も高齢化

展示会開催、情報求める

長岡市栃尾地域で古くから生産されていた絹織物「栃尾紬」の研究を、長岡造形大の菊池加代子教授(61)らが設立し、技術や歴史、文化の保存に乗り出した。江戸時代に考案された

デザインのデジタル化などを進める。市栃尾美術館(上の原町)で着物や織機などを集めた「栃尾の手織物展」を開催しながら、市民に情報を募っている。

造形大教授ら研究会設立

栃尾紬は、農家の副業として地域で織られていた絹織物。養蚕から仕立てまで一貫して各家庭で行われていたという。時代とともに家庭で作られることもなくなったが、現代まで続く繊維産業の礎となった。地域ごと、家庭ごとに模様が異なり、一之貝地区はかすり、中野俣地区は縞などの特徴がある。織物が専門の菊池教授は、知人を介して栃尾・一之貝地区の家庭生産の織物に触れ、「栃尾紬の品質の

高さに驚いた」と言う。栃尾紬に関する資料は少なく、関わってきた人も高齢になっていくため、文化をとどめようと研究を始めた。資料を地域で活用するため、市科学博物館に協力を依頼し、県立歴史博物館の研究員と共に研究会を設立した。今後は江戸時代に作られたデザインの見本約800点をデジタル化し「栃尾紬アーカイブ」の構築を目指す。

展示は11月23日まで。月曜休館。一般300円、高校・大学生150円、中学生以下無料。

菊池教授は「素晴らしい織物があったと、地元の人に再認識してもらえようという研究にしたい」と話している。

栃尾美術館では、古くからある地域の三つの家に受け継がれてきた着物や帯など約60点を展示している。実際に使われた織機や、糸を紡ぐ道具なども並ぶ。会場にアンケート箱を設置し、道具の使い方や用語など、絹文化にまつわる記憶を書いて寄せてほしいと呼びかけている。



栃尾地域の家庭で織られた着物や使われていた道具などの展示
 =長岡市栃尾美術館

11月11日(水)2020年
新潟日報

Otona

おとなプラス

ワンチーム新潟
取り戻そう日常
新型コロナウイルス

新型コロナウイルスを警戒しながらも、日常を取り戻す動きが本格化しています。「ワンチーム新潟」を胸に進みましょう。

栃尾紬 手仕事の文化



長岡市栃尾美術館に展示されている、渡辺家の着物と布



栃尾地域で使われていた織機

トンネルを抜けて、長岡市栃尾地域（旧栃尾市）に入る。西谷川、刈谷田川、塩谷川などの川が流れる盆地の地形で、車を走らせると小さな棚田がいくつも見える、かつてそこには青々とした桑畑があり、集落に立ち寄れば手織機を操る音が、トンカラリン、トンカラリンと響いていたことを思い浮かべる。

織物の町としての歴史は非常に長い。崇神天皇の時代に、技術が伝えられたともされ、「日本三代実録」によると、平

安期の初めごろ越後から朝廷に貢租として献上されたものの中に、栃尾で作られた白絹が含まれていたという。

江戸時代中期には長岡藩より養蚕、機織りが推奨された。絹模様の紬が生産されるようになった、高い技術が全国から評価されるようになった。また、地元の庄屋、植村角左衛門が技術革新に力を入れ、各地の織物を視察し、米沢（現山形県）で織られていた玉系使用の節系織を、栃尾紬に取り入れた。

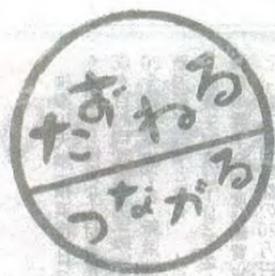
元々の無地、栗山沢の黒地、黄格子、黒八丈、荷頃の千筋、中野侯の鼠織、一之貝の紺、栃堀の千筋、万筋、大名、赤谷の大柄な

業の中心となり、現在絹糸の生産や手織りの栃尾紬で収入を得る農家は少ない。貴重な手仕事の文化が忘れ去られようとして

織っていた女性や家族などに聞き取りを行っている。現在、長岡市栃尾美術館では、研究会が主催する展示「栃尾の手織物と絹文化」が開催中だ。

「と」記されている。しかし、着物から洋服へとライフスタイルは急速に変化した。自動織機での生産が繊維産業の中心となり、現在絹糸の生産や手織りの栃尾紬で収入を得る農家は少ない。貴重な手仕事の文化が忘れ去られようとして

そんな危機感から、長岡造形大教授の菊池加代子さん(61)、准教授の小林花子さん(49)が、県立歴史博物館の研究員らの協力を得て「栃尾の手織物と絹文化研究会」を立ち上げ、記録保存の取り組みを始めた。町の用具庫や農家のたんすに眠っている



本日の案内人

堀川 愛理

(ライター)

写真はカメラマン・高橋朋子

2021 開運 予約受付スタート

宝福袋

ご購入金額の2倍以上の商品が入っている

大満足セット!

ARAIYA

025-234-7000

空	12日(木)	13日(金)	14日(土)	15日(日)	16日(月)	17日(火)	18日(水)
新潟							
新潟	14	3	17	6	16	9	16
新潟	14	2	17	5	16	8	16
高田	15	2	18	5	17	8	17
相川	13	6	18	7	17	10	17
星指	50	0	20	40	20	10	30

【星空指数】0~10:今夜はあきらめて 20~30:見られてもわずか
40~50:時々、雲が邪魔しそう 60~70:明るい星ならばちり 80~100:星が空いっぱい広がる

◆掲載する指数は曜日や季節によって変わります。
11月は、洗車、洗濯、重ね着、星空、なべ、お出かけの順に掲載します。
(日本気象協会新潟支店)

12面 南魚沼署で12人感染

11面 高校生の怒り、自作劇を上映

10面 地元木材で組み立てハウス

2・3 特集 4 健康 5 ライフ
6・7 テレビ 8 読者・小説
9 人物・スポーツ
10・11・12 ニュース



「季のうた」8面に

育てた蚕の糸を織る

織物のテキスタイルデザインが専門の菊池加代子さんは、栃尾紬といふものがあることは知っていた。大

「たいな」と思った

学勤務で長岡に住むようになり、地の家でも養蚕から糸作り、織り、仕

元テキスタイルだと分り調べよ

うと思ったが、いくらネットで探しても実物を目にすることが難しい。そんなことを栃尾の一之貝集落出身の職員に話すと、「祖母も母も織っていた」と言う。「大学で見せていただいた端切れが、あまりにも素晴らしい」と話した。

蚕を「ぼこ様」、糸繰りを「まけまけ」と言っていたという話なども興味深かった。端切れや着物を撮影し大学の研究紀要にまとめた。

これら渡辺家で織られた栃尾紬は、自宅にあつたから、栃尾紬を織る家

織つたりしている、私はそれを見る

布が示す祖母の腕前

の目の間隔が同じで隙間なくきれいな自生地を見て、ばあさんはプロだなと思った」という。

山本貞春さん(71)と妻のチドリさん(71)は、美術館の近くでアト

ギヤラリーを開いている。貞春さんの出身は東中野侯で、祖母が機織りをしてきた。栃尾紬の資料を探していることを知り、店で台の代わり

りにしていたたんすを開けてみると、布や端切れや真綿、亀の子などが入っており、今回の展示に提供

した。「祖母はぼこ様を育て、糸を紡ぎ、機織りをしてきた。昭和46年に街中に引越してきた当時は70歳ぐらい

で、自分の健康のためと言って続け

ていた」と貞春さん。「横糸と縦糸の糸の世界は深い。栃尾

山本貞春さんとチドリさん夫妻



① 菊池さんたちが取材をした剣持トシさん(93)が織った紬の端切れ。縞や格子ほか、いろいろな模様美しい
② 渡辺家で織られていた栃尾紬



③ 山本家のたんすと織物
④ 山本家のたんすに収められていた真綿

元祖 継続だんご

淡白な甘み
高雅な風味
清楚な姿

林業実業士「放浪記」に載る、名物「継続だんご」作者の情心を凝らし生きた希望を持たせただんごです

おかげさまで百十七周年！
直江津三野屋の
元祖 継続だんご

継続だんごは5本入～36本入
その他各種銘菓、冠婚葬祭用菓子も地方発送承ります

三野屋
上越市中央一丁目一五三
TEL:025-544-1111
FAX:025-544-1131

暮らしに役立つ生活情報 広告

返還不要の奨学金を給付
2月に新潟などで「給費生試験」
神奈川大学

神奈川大学(横浜市)は2月4日(木)、広く全国から優秀な人材を募り、その才能の育成を目的に「給費生試験」を新潟市など全国20会場で実施する。新潟は代々木セミナーホール新潟校が会場となる。

給費生制度は1933年から実施している独自の奨学金制度。給費生として入学すると入学金相当額の20万円を入学初年度に給付するほか、文系学部は年額100～110万円、理工系学部は年額135万円を原則4年間給付(毎年継続審査あり)。さらに自宅外通学者には年額70万円の生活援助金を原則4年間給付する。いずれも返還不要。

問い合わせは神奈川大学入試センター(045-481-5857)。

大切な家族にゆとりを。ご葬儀の備えも安心の生命共済。

一人分の掛け金でお二人を保障

カップルプラン	70歳まで保障します。お二人がご一緒にお住まいください。	70万円
シングルプラン	84歳まで保障します。お一人はご高齢な方でも大丈夫です。	100万円

●保障期間1年で毎年自動更新される掛け捨ての共済です。
●新潟ゆとり生活協同組合の組合員へのご加入が必要となります。(出資金10500円)

お問い合わせ ☎025-280-0507 組合員募集中
資料の請求は [月～金/9:00～17:00] 新潟ゆとり生活協

男性69歳 女性74歳 まで加入OK
医師の診査 不要 持病のある方も加入できる場合があります
割戻金 あり

新潟県認可 7950-0992 新潟県新潟市中央区上野上1-11-31
NIGATA YUTORI SEIKYO 新潟ゆとり生活協同組合

エンバーミングが、大切な人に、尊厳と安らぎをもたらしめます。

エンバーミングは、遺体衛生保安と訳されます。欧米で長い歴史を持つエンバーミングは、大切な人との最後のひとときを、こころ穏やかに安心して迎えるための技術です。

ぬくもり葬

知っているセミナー開催中！
いきいき終活のススメ

「終活」とは、自分を見つめ、今をよりよく、自分らしく生きること。物の整理・介護・相続・葬儀・お墓などの疑問にお答えします。

お申し込み・お問い合わせは 本社(新潟) ☎025-285-1110 株式会社ビップ 本部(三条) ☎0256-33-3636

証言基に記録保存へ

小林花子さんは昨年、彫刻作品の個展を美術館で開いた。作品の表現にもつながる地元の手仕事に興味があり、調べるうちに、養蚕や手織物が盛んだった歴史を知った。そこで真綿を作るワークショ

ップをしたり、道具を展示したりすると、「昔家があった」とか「養蚕をしていた」という見学者の声を聞いた。ただ、実際にどうい

う布が織られていたのか、生活の中でのようになったのか分からない。関わっていた人は現在80代から90代だ。早くしなければ、という思いから、菊池さんと一緒に「栃尾紬アーカイブの構築」を始めた。

「機械製糸よりも柔らかい風合いが出るような、素朴な糸が栃尾の特徴の一つに感じた。紬と一口に言っても絹糸の取り方もさまざま、

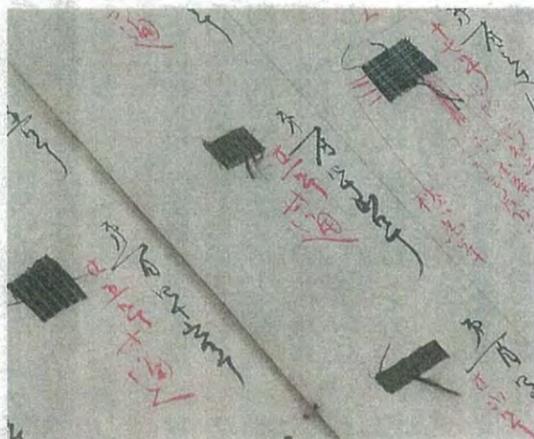
「展示を見ていただく」と分かるが、皆素晴らしい。こんなにきれいなものを、よく作ってくださいましたと、栃尾の方々に伝えたい」

研究会では3年計画で記録保存活動を始め、大規模な展示会で発表をし、印刷物にまとめたことを考えている。「養蚕は無理でも、デジタル化した記録から昔の紬の柄を再現することができる。栃尾の織物の新しいブランディングにつながるかもしれない」と、菊池さんは夢を語った。

糸作りに使われた道具も展示。見学者からの情報提供のきっかけにも



「栃尾の手織物と絹文化」展示の様子＝長岡市栃尾美術館

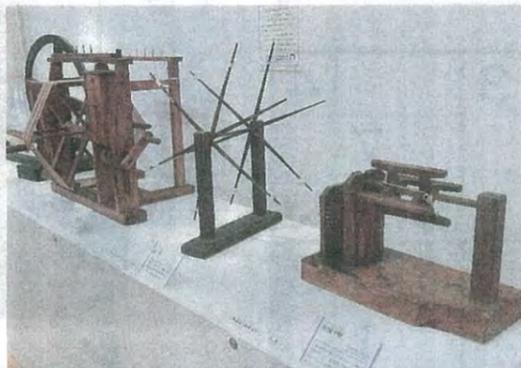


長岡市指定有形文化財の「栃尾紬標本」。江戸から明治時代、仲買人が織り手に示した見本と思われる

貴重な文化の記録を残す活動をする長岡造形大教授の菊池加代子さん(右)と准教授の小林花子さん



西中野俣にあった道具箱から見つかった絹織物の端切れ。糸がとても細く、縞模様のもと風合いが異なる



糸作りに使われた道具も展示。見学者からの情報提供のきっかけにも

長岡市栃尾地域で 栃尾紬が織られていた主な集落



※現在の地名。国土地理院地図電子版を加工して作成

農家のたんすや道具入れから出てきた端切れの数々。家族のために農作業の合間を縫って織られた紬、仕立てた着物。その色や柄の豊かさを見てほしい。展示をきっかけに情報が集まりますように、そして栃尾の手織物文化が後世に伝わり引き継がれますように…。



〈ほりかわ・あいり〉1959年、福島県生まれ。エディター、ライターとして雑誌、企業PR誌などを編集、執筆する。

■長岡市栃尾美術館「開館25周年のあゆみ展」

特別企画「栃尾の手織物と絹文化」(第2期展示)

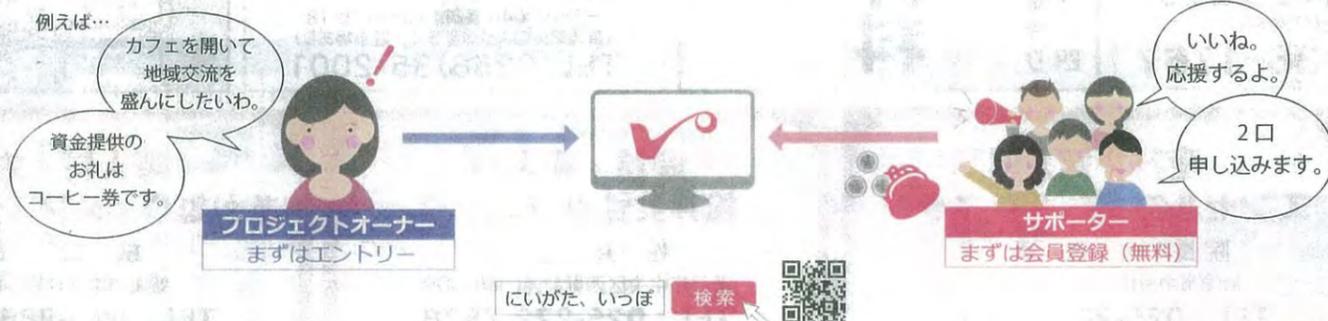
23日まで、長岡市上の原町1の13の長岡市栃尾美術館。0258(53)6300。午前9時～午後5時(発券は同4時30分まで)、23日を除く月曜休館。観覧料300円

新潟の夢をカタチに!

未来を創るクラウドファンディング
にいがた、いっぽ

『にいがた、いっぽ』とは

インターネットを通じて一般の人々から資金調達をする仕組み＝クラウドファンディングです。プロジェクトに賛同した資金提供者(サポーター)が、事業者(プロジェクトオーナー)に資金を提供し、そのお礼としてモノやサービスを受け取ります。



新しいことを始めたいあなたと、夢のあるプロジェクトを応援したいあなたをつなぐ、それが「にいがた、いっぽ」です。 **まずは検索!**

長岡市栃尾美術館
「開館 25 年のあゆみ展」
特別企画

第一期

2020.8.18 (火) ~ 9.27 (日)

第二期

2020.10.6 (火) ~ 11.23 (月)

9.28~10.5 展示替えのため休館

9.21・11.23 を除く月曜日及び 9.23 (水) は休館

長岡市栃尾美術館「開館 25 年のあゆみ展」

栃尾の 手織物と 絹文化

長岡市栃尾美術館

公立大学法人
長岡造形大学
Nagaoka Institute of Design

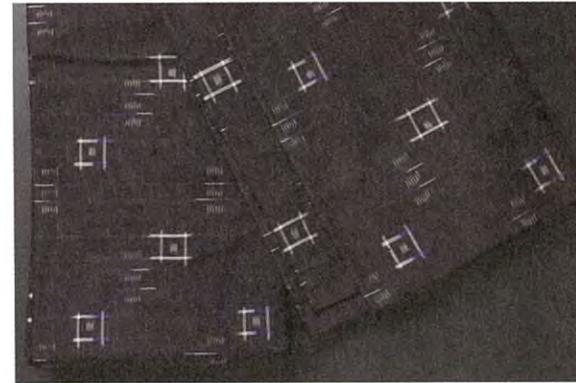
NID

〒940-0237 新潟県長岡市上の原町 1-13
TEL: 0258-53-6300 FAX: 0258-53-6370

主催：栃尾の手織物と絹文化研究会(長岡造形大学 菊池・小林研究室)
協力：長岡市栃尾美術館・新潟県立歴史博物館・長岡市立科学博物館
後援：長岡造形大学・栃尾織物工業協同組合・かざぜん(株)
会場：長岡市栃尾美術館 展示室Ⅱ
※ 観覧には「開館 25 年のあゆみ展」チケットをご購入ください。



絹文化
手織物と
栃尾の



- 1 絹と糸 | 一之貝地区 渡辺家
- 2 孫娘のために制作した着物 | 一之貝地区 渡辺家
- 3 半幅帯 | 一之貝地区 渡辺家
- 4 整経機 | 栃尾農林業資料館
背表紙 羽織 | 一之貝地区 渡辺家

※1,2,3 撮影 吉田勝幸

栃尾の手織物と絹文化

栃尾には崇神天皇の時代に紬の技術が伝えられたとされ、越後の紬の中でも最も歴史が古いと言われています。江戸中期には長岡藩より養蚕・機織りが推奨され、縞紬が生産されるようになると、その独特な風合いと高い品質から全国に名を馳せるようになりました。当時、栃尾紬は農家の副業として栃尾全域にわたり生産されていました。桑を植え、蚕を育て、糸を紡ぎ、染め、手織りで織るという一貫の工程で幾代にもわたってその伝統技術が受け継がれてきました。

しかしその技術の伝承は時代とともに変化し、自動織機での生産が栃尾の繊維産業の根幹となると、自家用として一部の地域で細々と織り続けられたものを残し、現在はその貴重な手仕事は忘れ去られようとしています。

本展覧会では、栃尾の織物の歴史とその極めて貴重な地域の遺産を再認識し、その魅力と価値を後世に伝えることを目的として、この地域で育まれた手織物と絹文化にまつわる資料を紹介します。

現在、栃尾紬に関する資料や情報は極めて少なく、技術の世代間継承が途絶え、生活の中にあつた絹文化の記憶さえも薄れていく中で、この地域の誇りとも言える文化の手がかりが急速に消えていこうとしています。この展示をきっかけとして、今残されている希少な情報をまとめ、地域の大切な遺産として残すために、栃尾地域に残る養蚕や織物など絹文化にまつわる情報を募集します。着物、織物、道具、暮らしの中で語り継がれてきたものごとなど、様々な情報を是非お寄せください。

会期中のお問い合わせ / 長岡市栃尾美術館

アクセス

- JR 長岡駅大手口 11 番線から見附経由栃尾車庫前行バス 60 分または、同駅東口 4 番線から、新榎トンネル経由栃尾車庫前行バス 45 分
「中央公園前」下車、徒歩 15 分または、「栃尾車庫前」下車、タクシーで 5 分
- JR 長岡駅東口、見附駅からタクシー 20 分
- 関越自動車道 長岡 I.C から R8 長岡大橋経由、R351 で 40 分
- 北陸自動車道 中之島見附 I.C から R8 経由、R351 で 30 分





栃尾の手織物にまつわる 情報をお聞かせください

栃尾には古より栃尾紬と呼ばれる手織物が幾代にもわたり受け継がれてきました。それはこの地域の人々の生活と豊かな文化を育んだ大切な財産と言えます。しかし、現在は企業で生産されるものを除き農村で生まれた手織りの技術は、特色ある生活の記憶とともに失われようとしています。現在、栃尾の手織物に関する資料は非常に少なく、後世に伝え残していくことが困難な状況と言えます。

栃尾の手織物と絹文化研究会では、地域の貴重な絹文化にまつわる情報を集め、記録を残すことを目標にしています。桑の栽培・養蚕、真綿づくり、糸づくり、染め、手織りに関すること、絹にまつわる生活と文化についてさまざまな話をお聞かせください。

お問い合わせ：栃尾の手織物と絹文化研究会

公立大学法人長岡造形大学研究推進課

小林研究室

長岡市栃尾美術館 TEL/0258-53-6300

E-mail / tochio.silkresearch@gmail.com

TEL/0258-21-3471

FAX/0258-21-3515

FAX/0258-53-6370



栃尾の手織物と絹文化研究会